全地連「技術フォーラム2025」山形総括

（一社）東北地質調査業協会　副理事長
全地連「技術フォーラム2025」山形　実行委員長
橋本　岳祉

（一社）全国地質調査業協会連合会（以下、全地連）「技術フォーラム2025」山形が2025年９月11日（木）～12日（金）の２日間、山形市内の『山形テルサ』にて開催されたので概要を報告いたします。

会場の山形テルサ

今回のメインテーマは「防災・減災、国土強靱化を担う地質調査業」～阪神・淡路大震災から30年～で、全国からの地質調査業に係る500名以上の技術者と、来賓・関係者・一般参加者を合わせて総勢640名の参加者数になりました。全国各地の技術者との交流を通して我々ジオ・アドバイザーの役割の重要さを実感できたことは何よりの成果だったと思います。１年以上前から、一緒に知恵を絞りながら努力していただいた実行委員の皆様、スタッフの皆様へ改めて深く感謝をいたします。

実行委員会は、

理事長　奥山清春
実行委員長　橋本岳祉（副理事長）
副理事長・技術委員長　三浦正人
理事・総務委員長　上野圭祐
理事・技術副委員長　菅野孝美

を筆頭に各理事、各常設委員会の委員、各会員会社の技術者、事務局長および局員の総勢48名で構成され、それぞれの任務に当たりました。

開催日当日、前日までの大雨が嘘のように晴れ渡り、山形駅から会場までの駅舎内には歓迎の看板などが「山形コンベンションビューロー」により掲げられて、全国からのお出迎えも準備万端でした。

10時から１階のテルサホールでの開会式では、全地連会長「田中誠」様からの開会挨拶があり「東北地方では東日本大震災以降も、自然災害の脅威に直面し続けている。災害に備え、迅速な復旧・復興、その先の持続的な発展のために地質調査業が果たす役割は大きい」とした上で、地質調査業の発展に向けて「技術者にとって魅力ある業界、企業を目指す意識と行動が不可欠だ。会員が互いに連携を深め、技術を高め、取り組みを社会に発信し続けなければならない。フォーラムがその一助になってほしい」とのお言葉を頂きました。

来賓挨拶で国土交通省東北地方整備局「西村拓」様と、山形県知事「吉村美栄子」様からお言葉を頂きました。吉村知事からは「2024年に当県は、これまでに経験したことのない大雨に見舞われ、その被害額は風水害で過去最大になった。災害に強い県土づくりには、インフラの長期的な供用が不可欠だ。引き続き、専門的な知見で県民の命と暮らしを守る強固な社会基盤づくりに力を貸してほしい」と協力を求めました。

その後の特別講演会では、内閣官房国

土強靱化推進室次長の「山本巧」様から「国土強靱化に関する最近の傾向について」との題名で防災・減災・国土強靱化のための５カ年加速化対策などを含めた取組の効果と、地方公共団体や民間における強靱化の取組など、最近の動向等を解りやすく講演頂きました。

11日午後からは各ブースに分かれて技術発表会が行われましたが、テルサホールでは特別セッションとして山形大学学術研究員「本山功」教授から「ここ数年の東北地方での災害とその対応について」と題しての基調講演が開催され、会場は立見が出るほどの盛況でした。

特別セッション

特別セッション会場

展示会場では我々「東北地質調査業協会」もブース展示を行い、東北各地の酒蔵と地下水のダイアグラムを表示した地図を展示し、「この地図は何処で手に入るのか？」との問い合わせもありましたが、オンリーワンの地図のためここにしかない物なのです、欲しいと言ってくださった皆さま、申し訳有りませんでした(笑)。

展示ブース酒蔵紹介

18時からは、会場をメトロポリタン山形に移動して技術者交流会が開催され、奥山理事長の挨拶後に、来賓として全地連顧問の前参議院議員「佐藤伸秋」様と参議院議員の「見坂茂範」様からお言葉を頂き、山形市長「佐藤孝弘」様からもご挨拶のお言葉を頂きました。

奥山理事長

全地連技術委員長「天野洋文」様の乾杯の後、交流会は和やかにスタートとなりました。全国から山形へ足を運んで頂いた皆さまを歓迎するべく、やまがた舞子と山形大学花笠サークル「四面楚歌」が大凡540名もの参加者を大いに賑わせ、会場中の旧交を温めている皆さまを歓待致しました。会場の一角には、東北各県の銘酒を10種類以上置きましたが、全国の日本酒愛好家が黒山を作りあっという間に完売（完飲？）となり、我々実行委

員会も全国の皆さまに東北各地のお酒を気に入って頂き、選んだ甲斐が有りました。

懇親会場

東北各地の銘酒

やまがた舞子

花笠踊り

宴もたけなわですが、愉しい刻には終わりがあります。締めの前に、来年開催の「技術フォーラムin岐阜」のアピールのために参加していた中部地質調査業協会メンバーが壇上にて挨拶と意気込みを語り、「来年岐阜でお逢いしましょう」と呼びかけ拍手と声援に囲まれました。

次回開催の中部地質調査業協会

二日目はフォーラムの開催中でしたが、次回開催予定地岐阜の中部地質調査業協会の実行委員会の皆さまと東北地質調査業協会実行委員会の合同会議を開催しました。ここでは、フォーラム開催までに地域協会が担当する準備作業やそれに伴う苦労話などをし、開催に当たっての具体的な質問にお答えするなどして、次回の技術フォーラムの成功を全員で祈りました。

フォーラム当日、全体のスタッフミーティングの初顔合わせから始まった会場運営もスムーズに行われ、改めて東北地質調査業協会の皆様のチームワークの良さに驚かされるとともに、大変感謝しております。

最後になりますが、実行委員および全てのスタッフの皆様のご協力のもと無事終了することが出来たことに感謝の念で一杯です。改めて、関係各位へお礼を再度申し上げます。

今回の開催に当たり、細部にわたりご指導いただいた（一社）全国地質調査業協会連合会に重ねて厚く御礼申し上げます。